

# The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2009年3月号 通巻3号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2009

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

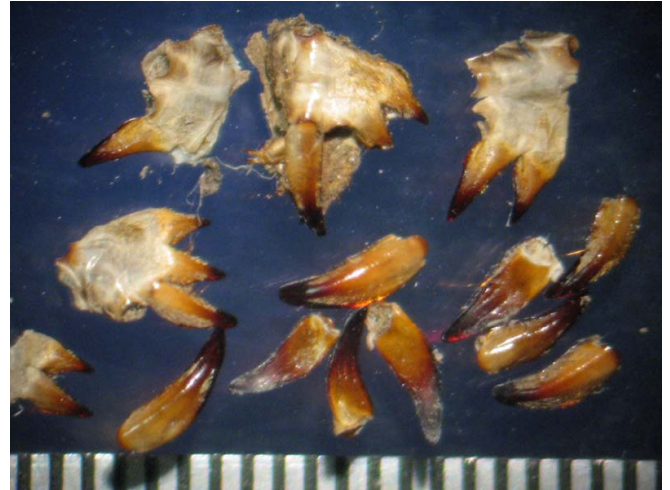
## 23区の住宅地にケラがいた！

### タヌキがお手柄大発見！？



[左]謎の節足動物の断片。モグラの前足にも似ているが、大きさは数mmほどなので、その可能性はない。定規の目盛は0.5mm。

[右]他にも多数見つかった断片(一部)。タヌキはいったい何匹のケラを食べたのだろうか。



タヌキの研究の中で、フンの分析はとても重要です。フンの内容物を調べれば何を食べたか知ることができるからです。特に東京都23区の場合は、都会のタヌキが何を食べているかを解明することができます。

#### 謎の断片の正体は？

2008年9月、私(宮本)は杉並区の住宅で採取したタヌキのフンを分析していました。念のために言っておきますと、フンをそのまま分析するのではなく、水洗いして残留物を調べるのです。残留物のほとんどは非常に小さいため、顕微鏡を使わなければなりません。

顕微鏡をのぞいていると、とても特徴的な物体を発見しました[写真左]。一瞬、私は「モグラの前足？」と思ってしまいました。しかし、大きさからいってそれはありえません。硬い外殻があることから節足動物のパーツであることは確実です。この形は昆虫ではない…と私は考え

ました。昆虫の脚にしては形が複雑すぎるからです。複雑な脚を持つ節足動物ならエビやカニがいます。しかし採取場所の近くには水場はまったくありません。それに形がエビにもカニにも似ていません。さらに他の残留物を調べていくと、同じような断片がたくさん見つかりました[写真右]。このことは、これが特殊な動物ではなく、数の多い普遍的な動物であることを暗示しています。

ここで私は考え直しました。これまでの状況を整理すると、やはりこれは昆虫と推理するのが妥当です。このように特殊化した脚を持つ昆虫は限られています。そう、例えばモグラのように地面を掘るような昆虫…。すぐに資料を探したところ、ありました！ このパーツはケラの前脚だったのです。

#### 都会にもケラはいる

ケラは「おけら」と呼ばれることもある、畑でよく見られる昆虫で

す。都会にはまずいないものと思われる昆虫でしょう。しかも採取場所は住宅地のど真ん中、畑などありません。では、タヌキはどこでケラを見つけたのでしょうか。現場周辺の状況から推理すると、おそらく学校の花壇・畑、民家の家庭菜園にケラがいたのではないかと考えられます。都会にはいないと思われがちなケラですが、おそらく23区内でも普通に生息しているのではないのでしょうか。それを発見した功労者は、もちろん東京タヌキです！

フンを分析すればタヌキの謎を解明できます。これからも時々フンの分析結果を紹介していく予定です。

### スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>